

- 遊休農地を活用して平成22年から和牛放牧を展開。**和牛放牧面積ゼロから3年目となる平成24年には33ha(実面積26ha)と増加。**
- 牧養力のある放牧地を造成するために**10haに牧草を4種混播。**
※牧養力とは、一定面積で成牛何頭が何日養えるかで示す草地の生産力指標
- 遊休農地4.1haが2年間和牛放牧した後に大根畑に転換。**

具体的な成果

1. **遊休農地を利用した和牛放牧が定着**
 - (1) **放牧農家数、頭数、面積とも増加**
→H24年は9戸が33haに和牛を放牧
 - (2) 放牧2年目は嗜好性の劣る雑草が繁茂
→地権者の理解を得て、H23年に農協と連携して2haに牧草を4種混播し、H24年には**牧養力が2.4倍延びた**



H23取組前



H24年春



H24年放牧

- (3) **普及所の提案により農地再生支援を県単で事業化。**牧養力の高い放牧地の計画作成と技術支援
→ H24年に10haに4種混播を実施



H24放牧前



放牧中



播種後3週

2. **2年続けて放牧した遊休農地4.1haが大根畑に転換**



H23年放牧時



終牧後掃除刈り



大根畑に転換

3. **地権者や地域住民から応援の声**
景観がとても美しくなり、地域や地権者から「きれいになった」「和牛放牧を応援する」などの声が聞かれ、一つの放牧地が1ha以上まとまるようになった。

普及員の活動

- 【平成22年】
- 和牛生産部女性会や放牧を希望している農家を対象に**現地研修会を開催**
→女性会7名中3名が放牧に取り組む
 - 放牧リーダー牛の育成を提案**
→2戸が4頭3ヶ月間放牧してリーダー牛を育成し、平成23年から放牧実施

- 【平成23年】
- 農協、市町、農家と放牧できそうな**不耕作地等を調査実施**
 - 県単和牛放牧拡大支援事業を活用**して電牧柵等放牧セットの導入を支援
→5戸が7セット導入
 - 農協、市町、県関係機関**と連携した電牧柵等の設置及び撤去、草刈り及び掃除刈の**連絡調整を実施**
 - 2年続けた**放牧地2haに農協と連携して牧草を4種混播**

- 【平成24年】
- 2年間の**取り組みを検証し、放牧地の牧養力向上対策やコスト低減効果を確認**
 - 野草だけの放牧地では牧養力が低いため**農地再生支援事業の活用を提案**
→電牧柵等放牧4セット導入し10haに牧草を4種混播

普及員だからできたこと

1. 専門技術と指導力に基づく、コーディネート機能を活用し、現場のニーズと関係機関を繋ぐことができた。
 - 農地再生支援の事業化
 - 地域や生産者の理解の促進
 - 和牛放牧の拡大